

2018年

県立海南高等学校
教育相談室

スクールカウンセラー便り 2・3月号

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

まだまだ寒いとは言え、陽ざしには春の気配が感じられる季節になりました。

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。みなさんは、この日をきっと誇らしく晴れやかな気持ちで迎えていることでしょう。テストや進路、部活、友人関係などに悩んだこともあったかもしれません。でもそれ以上に、達成感や充実感を得ることができた数々の貴重な経験を積んで卒業の日を迎えられたことは、廊下でのみなさんの姿や授業、学校行事などで垣間見えるみなさんの様子から、容易に想像できることです。



さて、これからは高校生活と比べて、さまざまな場面で自己決定をする機会がより多くなると思います。楽しいことだけではなく、困難に出会うこともあるかもしれません。そんな時も自分を信じて、将来の夢に向かって努力を続けてください。しかし、たまには休養も必要です。決して無理はせずに、自分のこころとからだに正直に生きてください。

最後に、海南高校で学んだことや出会った人たちは、みなさんにとってこれからも、かけがえのない存在であるということを忘れないで下さいね。「母校」は、折に触れみなさんを支えてくれるものだと思います。

みなさんの輝かしい未来を願っています。

“いい加減”のすすめ



私の座右の銘は、「“いい加減”に生きること」です。

みなさんは“いい加減”という言葉聞いて、何を連想しますか。おそらく、子どもの頃から大人に言われ続けてきたであろう「いい加減に勉強しなさい」「いい加減に起きなさい」「いい加減にゲームをやめなさい」「も～！いい加減だから」などの叱られているマイナスのイメージでしょう。これは、国語辞典によれば「一貫性や明確さを欠いていて、それに接する者に、うそ・ごまかし・でまかせ・行きあたりばったり」という印象を与える様子」や「限度を超えていて、そろそろ何とかしてもらいたい感じ」という意味として使われているものです。

しかし、いい加減には、もともと「何かをするのにちょうどほどよい状態」という意味があります。「いい〇〇加減」のように、〇〇の中に言葉を入れてみてください。例えば「いい湯加減」「いい塩加減」「いいさじ加減」のように、ちょうどほどよいという意味になります。ただ、このいい加減が難しい。自分だけではなく相手や周りの人たちにとっても、いい加減にしないとイケない。おかしい表現ですが、いい加減には少しの努力が必要なのです。いわゆる、ほどよいバランス感覚と柔軟性を身につけなければなりません。

さて、テレビでは連日平昌オリンピックでの日本人選手の活躍が映しだされています。とりわけ、男子フィギュアスケート羽生結弦選手の奇跡の復活劇は圧巻でした。これまでのたゆまぬ努力とそれに裏打ちされた技術と自信がなせる業なのでしょう。何十年ぶりに平日ライブでオリンピックを観戦できる喜びを感じつつ、これからもますますいい加減をめざして、ほどよく頑張っていきたいと思います。